



熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム
平成 29 年度事業報告・決算報告資料

平成 30 年 6 月

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

目 次

I. 設立の趣旨	-----	1
II. 事業期間	-----	1
III. 事業概要	-----	1
IV. 事業項目とスキーム	-----	2
1. フォーラム事業項目	-----	2
2. 事業スキーム	-----	3
V. 事業実施に関する事項	-----	5
1. 事業スタートのための準備作業の実施	-----	5
2. 企画運営委員会設立後の活動	-----	6
3. 情報共有と発信（広報活動）	-----	8
4. PT支援	-----	9
5. 会員増への取り組み	-----	10
6. 総会・企画運営委員会の実施	-----	10
7. 決算報告	-----	11
VI. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり 及び再生策検討プロジェクトチーム報告について	-----	12
VII. 活動PR 戦略プロジェクトチーム活動報告について	-----	13

I. 設立の趣旨

かつて豊穡の海として、かけがえのない多くの恵みをもたらしてくれた八代海・有明海は、水産資源の減少や赤潮の長期化・大規模化に代表されるように、著しい環境劣化の悪循環に陥っていると考えられ、その自然再生は極めて重要な緊急の課題です。海域環境の悪化が著しい一方で、この両海域は台風の常襲地帯でもあり高潮・高波などの海象災害や洪水・土砂災害などに悩まされ自然災害に対する防災・安全対策も欠かすことができません。この両海域では環境と防災との調和した沿岸地域社会の創成に関する対応策について、その緊急の構築が切望されている状況にあります。

このような状況のもと、「第8回全国アマモサミット 2015in くまもと・やつしろ」を開催し、八代海・有明海に関する全ての人たちが関係するテーマである“海の自然環境の保全と再生”、“環境と防災の調和”、“沿岸地域活性化”を含む「八代海・有明海を豊かな海に再生するため」をゴールとして、行政、大学・研究機関、水産関係、企業、NPO、市民が集い白熱の議論を展開しました。その成果を「熊本宣言文」としてまとめることができました。さらに、日本沿岸域学会全国大会 in 熊本（2017年7月）では、『シンポジウム「熊本地震と有明・八代の海」～有明海・八代海の将来に向けてどう取り組むか?～』を開催し、学会参加者一同の総意として「提言：熊本の海の再生に向けた行動を」をまとめることができ、再生に向けての大きな一歩が踏み出されるとともに、関係者の気運は確実に高まっています。

八代海・有明海を豊かな海に再生するにあたっては、海域のみならず陸域を含めた沿岸域一体としての取組が必要であり、より良い未来へ向かって、行政、大学・研究機関、水産関係、企業、レジャー関連、NPO/NGO、市民等様々な関係者が共通認識を持ち、考え行動すべき時が訪れています。

そこで、再生に係る課題や科学的知見、再生のための技術や情報等を共有し、改善方策について多様な関係者の総意をとりまとめ、対策の提案や実施をする“協働の場”として、「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム」を設立し、美しい自然環境に囲まれ災害に強く、元気でいきいきとした沿岸地域づくりを目指すものであります。

II. 事業期間

平成 29 年（2017）6 月 29 日～平成 30 年（2018）5 月 31 日

III. 事業概要

平成 29 年 6 月 29 日熊本県庁新館 8 階職員研修室にて開催した熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム（以下「フォーラム」という。）第 1 回企画運営委員会設立会議では、企画運営委員として、国・県・市・大学研究機関・民間団体・NPO 等から構成する 21 委員（6 個人,15 団体）が就任し、さらに、企画運営委員会会議オブザーバー 3 団体が就任した。この会議で、設置要綱・運営ルール・プロジェクトチーム（以下「PT」という。）新設のガイ

ドラインが承認制定された。また、企画運営委員長としてNPO みらい有明不知火理事長滝川委員（熊本大学名誉教授）が選任された。併せて、2つのプロジェクトチームが発足した。

平成29年12月1日熊本テルサにて開催した、熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム設立会議では、個人会員25名に団体会員24団体の出席、さらに、一般の133名が出席した盛大な設立総会を開催した。議長には熊本保健科学大学学長崎元達郎氏を選出し、議題の採択及び、監事2名、議事録署名人2名の選出並びに、顧問として東京湾再生官民連携フォーラム議長來生 新氏と、東京湾再生官民連携フォーラムモニタリングPT長古川恵太氏の選任が承認された。また、総会閉会后、「アマモ場再生から東京湾再生官民連携フォーラムへ」と題して東京湾再生官民連携フォーラム東京湾大感謝祭PT長木村 尚氏の特別講演を開催した。

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム会員数は、個人会員：42名、団体会員：28団体（平成30年5月31日現在）で官民の参加が得られている。

IV. 事業項目とスキーム

1. フォーラム事業項目

フォーラムの事業項目は、設置要綱第2条の目的を達成するために、第3条の活動を事業とする。

（フォーラム設置要綱抜粋）

（目的）第2条

フォーラムは、有明海・八代海等の美しい自然環境に囲まれ、災害に強く、元気で生き生きとした沿岸地域づくりに向け、行政、大学・研究機関、水産関係、企業、レジャー、NPO/NGO等の有明海・八代海等再生に意欲をもつ多様な関係者が有するあらゆる英知を集集し、連携や協働を行うこと、また、それらの活動を通して生み出される有明海・八代海再生への多様な意見を尊重しつつ、提案としてとりまとめるとともに、再生策の実施に取り組むことを目的とする。

（活動）第3条

フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- （1）有明海・八代海等再生に係る課題や科学的知見、再生のための取組、情報等を共有し、改善方策を検討するとともに、改善方策の実施に取り組む。
- （2）有明海・八代海等の魅力を発掘・創出・発信する取組に参画・協働する。
- （3）（1）及び（2）を目的とした多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。
- （4）有明海・八代海等再生に向けて検討又は実施すべき事項等について、多様な関係者の総意を踏まえ、再生策をとりまとめるとともに、関係省庁・関係自治体に対して提案する。

- (5) 総会を開催する。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項を実施する。

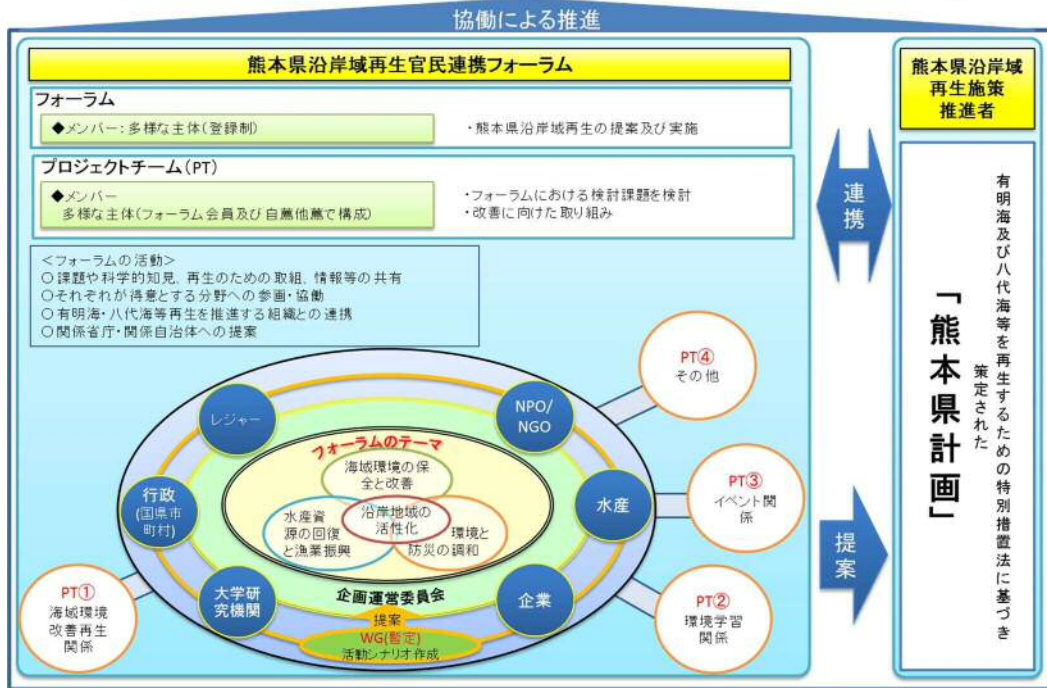
2. 事業スキーム

1)有明海・八代海等再生に当たっては、海域に関わる行政、大学・研究機関、水産関係、企業、レジャー関連、NPO/NGO、市民等様々な関係者が有する英知を結集し、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする新しい文化を育てていくことが必要であり、そのため、多様なメンバーとの連携・協働を進める場として「フォーラム」の役割がある。

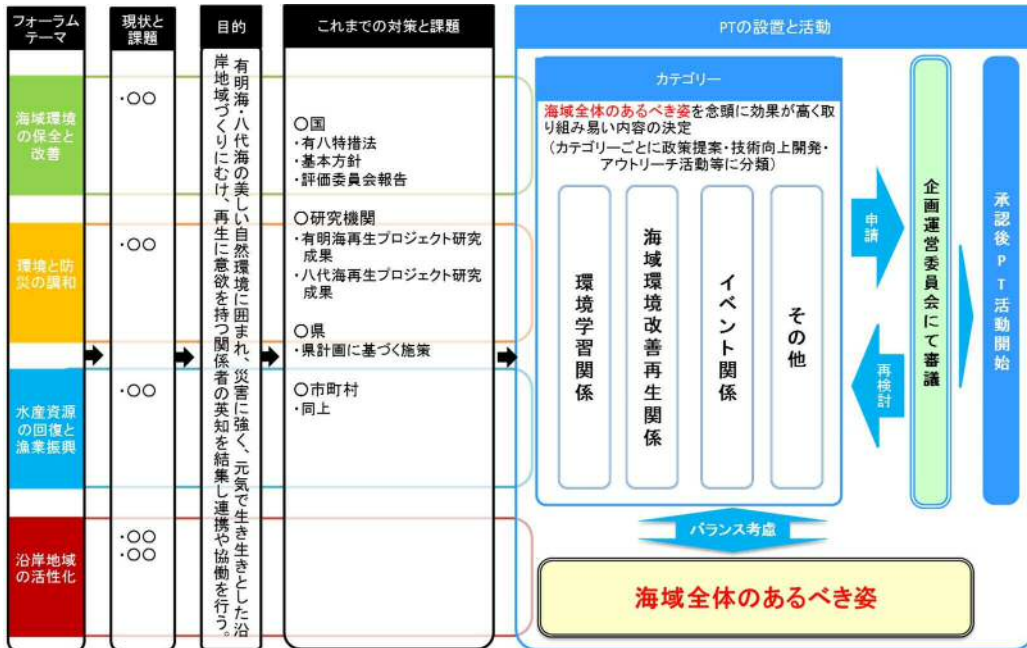
2)フォーラムでは、「海域環境の保全と改善」「環境と防災の調和」「水産資源の回復と漁業振興」「沿岸地域の活性化」の4つのテーマを掲げて、有明海・八代海等再生への参画・協働を呼びかけ、海域の現状や課題を理解・共有し、共に解決策を模索し、熊本県沿岸域再生施策推進者への提案や連携を行う。さらに、有明海・八代海等の魅力を発掘・創出・発信すること等や可能な再生策を実施することにより、有明海・八代海等再生の輪を拡げる事業を次の**フォーラムの全体像**の中で実施していく。

3)フォーラム活動を具体的かつ効果的に実施するため、PTを設置する。**フォーラムPTの設置方法**に示すように、PTの設置に関しては、フォーラムの掲げる4つのテーマを踏まえ、有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律（以下「有八特措法」という。）に基づいて策定された有明海及び八代海等の再生に関する基本方針や熊本県計画、研究機関により策定された有明海・八代海再生プロジェクト研究成果等を把握したうえで、海域全体のあるべき姿を念頭に効果が高く取り組み易い内容とし、フォーラムの活動を推進する。

熊本県沿岸域の環境と防災の調和した沿岸地域づくり



フォーラムの全体像



フォーラムPT設置方法

V. 事業実施に関する事項

1. 事業スタートのための準備作業の実施

前述の「熊本宣言」を機に平成 28 年 3 月 18 日にアマモサミット実行委員会メンバーを中心としてフォーラム立ち上げの準備を開始した。設立準備会合 3 回の実施と、PT の設置にかかる方針や方向性の検討、フォーラム設立のための活動のあり方の検討を行うための「活動シナリオ作成ワーキンググループ」（以下「活動シナリオ作成 WG」という。）を暫定的に設置した。4 回の会議を経て、第 1 回企画運営委員会設立会議を平成 29 年 6 月 29 日に実施した。

（開催経過）

◆フォーラム第 1 回設立準備会

日時：平成 28 年 3 月 18 日(金)15:00~17:00 場所：熊本県庁新館 8 階職員研修室
 内容：・熊本県の取り組み ・メンバーに企画運営委員会の参加依頼確認
 ・規約確認依頼

◆熊本震災 平成 28 年 4 月 14 日（前震） 4 月 16 日（本震） しばらく休止

◆フォーラム第 2 回設立準備会

日時：平成 28 年 8 月 31 日(水)14:00~16:00 場所：環境省九州地方環境事務所
 内容：・これまでの活動内容について ・熊本県のとりくみについて
 ・規約（案）とりまとめ ・企画運営メンバーについて
 ・活動にかかる事務局及び運営について ・その他

◆第 1 回シナリオ作成ワーキング（WG）会議開催

日時：平成 28 年 9 月 14 日(水)14:00~17:00
 場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
 内容：プロジェクトチーム（PT）活動テーマ

◆第 2 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 29 年 2 月 24 日(金)14:00~16:30
 場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
 内容：プロジェクトチーム（PT）活動テーマ

◆第 3 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 29 年 4 月 26 日(水)14:00~16:00
 場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
 内容：フォーラム全体像と PT 設置方法と PT 案

◆第 4 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 29 年 6 月 14 日(水)14:00~16:00
 場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
 内容：・PT 活動（案）・企画運営委員会設立会議内容協議と設立 ・総会内容協議

◆フォーラム第 3 回準備会兼第 1 回企画運営委員会設立会議

日時：平成 29 年 6 月 29 日(木) 14:00~ 場所：熊本県庁新館 8 階職員研修室
内容：・承認事項

- ①設置要綱 運営ルール 説明
- ②企画運営委員会設立
 - ・委員長の選出
 - ・企画運営委員の会員登録
 - ・PT 活動の承認
 - ・事業計画及び予算
- ③第 1 回フォーラムの開催について

2. 企画運営委員会設立後の活動

プロジェクトチームの活動と併行して、総会に向けた 2 回の活動シナリオ作成 WG 会議が開催され、11 月 8 日に平成 29 年度第 2 回企画運営委員会が開催され、平成 29 年 12 月 1 日に設立総会が開催された。その後、2 回のシナリオ作成 WG 会議が開催され平成 30 年 6 月 27 日に平成 29 年度第 3 回企画運営委員会が開催された。

◆第 5 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 29 年 7 月 29 日(金)14:00~16:00
場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
内容：

- ①PT の進め方と PT キックオフ会議に向けて
 - ・八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討 PT
 - ・活動 PR 戦略 PT
- ②HP と会員募集について
- ③設立総会及び特別公演について

◆第 6 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 29 年 10 月 31 日(火)14:00~16:00
場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）
内容：

- ①企画運営委員会会議内容について
- ②ホームページの開設
- ③会員募集及び総会案内について
- ④設立総会及び特別講演について

◆第 2 回企画運営委員会会議

日時：平成 29 年 11 月 8 日(水) 10:00~ 場所：熊本県庁新館 2 階 201 会議室
内容：・承認事項

- ①企画運営委員委嘱の件
- ②設立総会議題内容の件

- ③平成 29 年度活動計画（予算変更）について
 - ・報告内容
- ④プロジェクトチーム活動報告について
- ⑤会員の登録状況について

◆熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム設立総会

日時：平成 29 年 12 月 1 日（金）午後 3:00～5:30

場所：ホテル熊本テルサ・テルサホール

<審議事項>

- ①議題の採択（1 号議案）
- ②議長及び監事並びに議事録署名人の選任（2 号議案）
 - 議長：1 名
 - 監事：2 名
 - 議事録署名人の選任：2 名
- ③顧問の選任（3 号議案）

<報告事項>

- ①平成 29 年度活動計画（事業計画・予算）
- ②プロジェクトチーム（PT）の設置について
- ③意見交換

○特別講演

- ・演題：「アマモ場再生から東京湾再生官民連携フォーラムへ」

◆第 7 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 30 年 4 月 10 日（火）14:00～15:30

場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

内容：

- ①会員登録及び賛助金納入状況について
- ②PT 活動状況
- ③HP 活用について
- ④会計報告と事業計画並びに企画運営委員会開催について
- ⑤その他

◆第 8 回シナリオ作成 WG 会議開催

日時：平成 30 年 6 月 12 日（水）14:00～

場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

内容：第 3 回企画運営委員会前会議

◆第3回企画運営委員会会議

日時：平成30年6月27日(水)14:00~

場所：熊本県庁本館6階601会議室

内容：

1. 承認事項

- ①平成29年度 事業報告・決算報告・監査報告
- ②平成30年度 事業計画(案)・予算(案)
- ③平成30年度 通常総会議題(案)

2. 報告事項

- ①PT活動状況報告
- ②ホームページの公開状況と学習館協力をお願い

2. その他

3. 情報共有と発信(広報活動)

3.1 ホームページの開設と運用

- (1)情報発信の基盤としてフォーラムHP(kumamoto-forum.com)を開設
- (2)フォーラム活動経過を最新情報として順次掲載するとともに、企画運営委員会の議事概要、フォーラムの活動経過、PT活動経過等の情報揭示
メインメニュー構成として次の内容を掲載
[ニュース・活動内容・活動報告・入会案内・賛助金のお祝い・お問い合わせ・活動紹介コーナー]

(3) 他団体紹介HP状況

活動PR戦略プロジェクトチームと連携して下記の他団体内容を掲載中。

- ①【NPO法人みらい有明・不知火】(熊本県熊本市, 2002年設立)
- ②【やつしろ里海ネット】(熊本県八代市, 2009年設立)
- ③【天草海部】(熊本県天草市, 2014年設立)
- ④【熊本大学市民講座2018 八代まるごと自然体験】

3.2 広報掲載実績

フォーラム設立に関する記事等が7件掲載された。

日 付	掲 載 媒 体	タ イ ト ル
平成 29 年 6 月 30 日	熊本日日新聞	海保全へ官民フォーラム
平成 29 年 7 月 23 日	日本沿岸域学会全国大会（熊本）2017	「シンポジウム：熊本地震と有明・八代の海～有明海・八代海の将来に向けてどう取り組むか？」
平成 29 年 9 月	日本沿岸域学会誌第 30 巻第 2 号、2017.9	沿岸域学会全国大会シンポジウム報告（滝川清）
平成 29 年 11 月 8 日	建産プレスくまもと	熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム 12 月 1 日、熊本テルサで設立総会
平成 29 年 11 月 22 日	熊本日日新聞	県沿岸域再生へ官民フォーラム
平成 29 年 12 月 1 日	建産プレスくまもと	熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムが設立総会
平成 29 年 12 月 2 日	環境省九州地方環境パートナーシップオフィス	<環境パートナーシップ> 熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム設立総会が開催されました

3.3 シンボルマークの作成



熊本県沿岸域
再生官民連携フォーラム

活動 PR 戦略プロジェクトチームによるフォーラム紹介リーフレット作成時にシンボルマークを作成した。

ジャイロの調和的な形状を活かし、フォーラムの活動の一環である「有明海・八代海等の再生を推進する組織との連携」を表現している。軸を支える丸は、行政・研究機関・市民などを表しており、多様な主体が一体となりより良い未来を指し示してゆく、という意味を込めている。

4. PT 支援

本年度は、以下の 2 つの PT を設置し活動を実施した。

4.1 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討プロジェクトチーム

川岸 寛 PT 長

①第 1 回打ち合わせ会議「八代海湾奥の現状と問題点」

日 時：平成 29 年 12 月 27 日 10:00～12:00

場 所：熊本高等専門学校八代キャンパス

参加者：企画運営委員・県・自治体・熊本高等専門学校・民間・NPO 法人・事務局
計 15 名

会議内容

1. 検討の進め方

2. 八代海の概要
3. 八代海の環境の現況
4. 八代海湾奥部（八代海湾北ゾーン）の問題点整理
5. 現状と問題点に対するアンケート依頼

②第2回打ち合わせ会議「八代海湾奥の問題点」

日時：平成30年3月23日 15:00～17:00

場所：宇城市役所 本館 第2会議室

参加者：企画運営委員・県・自治体・熊本高等専門学校・民間・NPO法人・事務局
計15名

会議内容

1. 検討の進め方
2. 八代海湾奥部(八代海湾北ゾーン)の問題点の整理
3. 今後の検討について
4. 話題提供：日本に定着したスパルティナ・アルテルニフロラ～熊本の現状～

4.2 活動PR戦略プロジェクトチーム

上久保 祐志 PT長

①情報の発信

シナリオ作成WG会議及び事務局と連携した情報の発信を実施

②フォーラムリーフレット印刷

シナリオ作成WGメンバーと連携してフォーラムのリーフレットを作成

タイトル：熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

～熊本県沿岸域の環境と防災の調和した沿岸地域づくり～

印刷部数：450部

費用：¥177,282-（デザイン印刷会社フラッグス委託）

5. 会員増への取り組み

企画運営委員22委員（6個人,16団体）および、企画運営委員会議オブザーバー3団体、で企画運営委員会を開催している。これらの委員を含めて現時点では、個人会員：42名、団体会員：28団体（大学(4)・国(3)・県(3)・市(4)・団体(4)・NPO(2)・民間企業(8)）平成30年5月31日現在）となっている。

6. 総会・企画運営委員会の実施

企画運営委員会を前述のとおり6月、11月、6月の3回開催した。また、設立総会を、12月1日に開催し、審議事項の承認を得るとともに、先行事例として活動されている東京湾再生官民連携フォーラムから「アマモ場再生から東京湾再生官民連携フォーラムへ」と題して東京湾再生官民連携フォーラム東京湾大感謝祭PT長・特定非営利活動法人 海辺つくり研究会 理事 木村 尚氏を招待して特別講演を行った。

7. 決算報告

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

平成29年度事業会計報告書

2018/6/8

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H29年度予算	H29年度決算	備 考
(1) 寄付金	1,000,000	1,000,000	NPO法人みらい有明・不知火
(2) 助成金	0	0	
(3) 賛助金	0	772,000	個人:24名 団体7団体
(4) 雑収入	0	19,700	設立総会時の懇親会費残金
(5) 預貯金金利にかかる雑収入		6	
(6) その他	459,585	459,585	2015全国アマモサミットin熊本県・八代市大会残金
(A) 単年度収入合計	1,459,585	2,251,291	
(B) 前年度繰越金	0	0	
(C) 収入合計=(A)+(B)	1,459,585	2,251,291	

【支出の部】

科 目	H29年度予算	H29年度決算	備 考
(1) フォーラム総会費用	600,000	490,100	会場費・記念講演者交通費謝金・印刷等
(2) PT活動費	230,000	177,282	2プロジェクトチーム(PRPTのリーフレット代のみ)
(3) 事務局経費	272,000	85,902	
1) 事務局運営費	50,000	29,418	事務用品等備品代・消耗品代・振込手数料 他
2) HP開設費	72,000	56,484	HP開設運用費(家賃・水道光熱費は本年度は計上無)
3) 旅費交通費	10,000	0	事例・情報収集等に伴う移動
4) 通信費	20,000	0	事務連絡等
5) 印刷製本	20,000	0	会議資料等
6) 雑費	100,000	0	予備費等
(D) 単年度支出計	1,102,000	753,284	
(E) 単年度収支差額=(A)-(D)	357,585	1,498,007	
(F) 次年度繰越額=(C)-(D)	357,585	1,498,007	

VI. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり

及び再生策検討プロジェクトチーム報告について ----

川岸 PT 長

八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討プロジェクトチームでは、平成 29 年度は八代海湾奥の環境特性及び環境上の問題点について共通認識の形成を目的に活動し、宇城市をはじめ関係市町及び熊本県の関係者間では成果を挙げることが出来た。以下に成果の概要を示す。

当該海域の環境特性は、流域からの負荷に加えて球磨川からの負荷が平均流で運ばれてくること、集積した負荷は堆積傾向にあり、底質の悪化が進行し、底生生物は八代海の他海域に比べて種類数・個体数ともに少ない状況である。環境特性を踏まえて、宇城市をはじめ関係市町及び熊本県が行ったアンケートの結果を勘案すると、以下のような問題点が整理できた。

- 海岸線の変化
- 陸域からの負荷
- 水質・底質の悪化
- 漁業対象種を含む生息生物の減少
- 干潟の干陸化
- 漁獲量の低迷(放流事業を含む)
- 干拓地の排水不良

これらの中には、原因・要因とその結果が含まれている。各々を原因・要因とその結果に分けると、下表に示すようになり、ほとんどの問題点の原因・要因は、「海岸線の変化」と「陸域からの負荷」に整理できた。

環境上の問題点の整理

問題点	原因・要因	結果	結果の原因・要因
海岸線の変化	○		
陸域からの負荷	○		
水質・底質の悪化		○	海岸線の変化(浄化機能の低下)、陸域からの負荷
漁業対象種を含む生息生物の減少		○	海岸線の変化、水質・底質の悪化
干潟の干陸化		○	海岸線の変化(干拓地の造成)
漁獲量の低迷(放流事業を含む)		○	海岸線の変化(浄化機能の低下)、陸域からの負荷、漁業対象種を含む生息生物の減少(漁獲対象生物の餌料生物の減少)
干拓地の排水不良		○	海岸線の変化(干拓地の造成)

VII. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム (PRPT) 報告について

上久保 PT 長

1. PRPT の役割

PRPT は、フォーラムのテーマを踏まえて、次の 3 項目の役割をミッションとして平成 29 年度に設置した。これまでの活動は、シナリオ作成 WG 会議及び事務局と連携した活動を実施している。

- (1) 県民に有明海及び八代海の現状や課題の再認識を促し、フォーラムが目指す方向性や活動内容を広く周知するとともに、その理解並びに協力の推進を図る。
- (2) 上記活動テーマにかかる情報、地域の情報など、関連する情報を幅広く収集する。
- (3) 収集した情報は、各媒体による効果的手段によって、広く発信する。

2. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム (PRPT) のメンバー

主に、シナリオ作成 WG 会議と同時に検討し、そのメンバーは、NPO 法人みらい有明・不知火、やつしろ里海ネットなどの民間組織及び関係公共機関で構成している。

3. 平成 29 年度の情報の発信

(1) ウェブサイト

フォーラム関連情報のほか、行政機関、研究機関、地域情報などの情報をわかりやすく発信する活動では、事務局と連携した、活動紹介コーナーを設け、各団体の概要を発信 (4. 参考資料参照) している。



<http://www.kumamoto-forum.com/>

(2) リーフレット

フォーラムの設立趣旨、活動などを広く周知するため、リーフレットを作成し配布した。

(3) マスメディア

総会に係る新聞報道、各機関の WEB における情報発信、学会誌への掲載などを通じて周知した。

4. 参考資料

(1) HP に掲載した他団体活動内容の紹介

フォーラム事務局と連携して、下記の内容をフォーラム HP に掲載している。
※掲載は、他団体の HP 管理者(又は代表者)の承諾を得て掲載している。

01 【NPO 法人みらい有明・不知火】(熊本県熊本市, 2002 年設立)

(主な内容)

NPO 法人みらい有明・不知火は、有明・八代海の沿岸域における「環境の再生・維持」と「海岸の防災・保全」に対処し、かつ、地域特性に応じた沿岸域の創成を目標に、2002 年 6 月に設立しました。本法人は、学術・技術的な調査研究とともに、一般社会への環境・防災教育を中心に活動を行っております。また、地域住民や行政機関などとの連携を深めて、海域環境の再生や防災に関する事業支援活動、海域の環境と防災に関する「診察」「診断」「治療」を行う「海の総合病院構想」の実現に取り組んでいるところです。行政・研究者・技術者を交えた「有明・八代海環境研究会」の開催、サミット・学会等も支援してお

り、本ホームページの「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム」についても支援しています。

(ホームページサイトをリンク)

02【やつしろ里海ネット】(熊本県八代市, 2009年設立)

(主な内容)

本会は、豊かな八代海を再生し、次世代に継承するため、八代海的环境と地域文化を理解し、住民、事業者、学校、環境活動団体などの協働による住民の意識啓発につなげる環境学習や交流事業その他の行動を進めるものです。その目的を達成するため、住民を対象とした環境学習や交流事業の開催や八代海に関する知識を高めるための学習会の開催を実施しています。(2012年, 熊本環境賞・くまもと水の国賞(地下水、川、海的环境保全部門)を受賞)

(ホームページサイトをリンク)

03【天草海部】(熊本県天草市, 2014年設立)

(主な内容)

天草海部は、天草の海(主に磯や浜)や川で遊び、そこに生息する生き物などを通して、天草の魅力を再発見し、発信していく地域のサークルです。「天草の海と生きよう」をモットーに、磯場の生き物観察会や浜辺のごみ拾い、海での遊び方教室などを開いています。多様な生き物がいて美しい地元の海を、誇りに思ってもらうきっかけにしてほしい。また、一緒に海を楽しみ、守っていききたいという思いから活動しています。

(ホームページサイトをリンク)

04【熊本大学市民講座 2018 八代まるごと自然体験】

(主な内容)

地域の自然環境を守るためには、地域の自然について研究・理解するだけでなく、住民の方々と連携し、協働することが重要です。そこで、2016年度より「熊本大学市民講座(八代まるごと自然体験)」を開始することになりました。この市民講座では、従来、各団体が個々に行っていた活動を結び付け、また、熊本大学が培ってきた研究成果を生かすことで、より効果的に地域の自然を守り、充実した環境教育を行います。

(平成30年度の活動プログラムをリンク)
